

平成 31 年春期 釜利谷地区推進連絡会

- 1 日時
平成 31 年 3 月 25 日（月） 17：00～19：00
- 2 場所
釜利谷地区センター
- 3 参加者

（地域側）自治会等地域団体関係	22名
（支援チーム、その他行政側）	
区役所	11名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	12名
警察	1名
消防	1名
- 4 第 3 期釜利谷地区地域福祉保健計画の平成 30 年度振り返り
【部会別報告】
- 5 意見交換
 - (1) テーマ
 - ①健康づくりで元気に暮らそう
 - ②みんなでつくる住みよいまち
 - (2) 取組発表
 - ①釜利谷地区 保健活動推進員会：保健活動推進員の取り組みについて
 - ②釜利谷地区社会福祉協議会：釜利谷地区社協の活動について
 - (3) グループごとの意見交換
地域の方々と支援チームが 6 グループに分かれ、上記テーマについて
 - ・各団体の取り組み内容を聞いた感想や地域の実態
 - ・困っていること、取り組みたいことなどを意見交換し、うち 2 グループが代表で、出された意見を発表しました。

【主なご意見】

 - 保健活動推進員のなり手が減ってきている。高齢者も、地域活動より自分の趣味を大切にする傾向があるのではないか。
 - 親の世代は仕事が多忙で、子どもは塾やクラブ活動などで忙しいので、地域活動に参加できない。
 - 健康づくりの前に組織づくりが必要。
 - リーダーシップをとってきた人が高齢化。後継者が育たない。

- 利用する人と世話をする人がわかれている。「一緒にやる」ことが必要。
- 後継者育成を見通した教育体制が必要
- 後継者問題は深刻。続けるためには町内会長にも手当てをつけてほしい。
- 保健活動推進員が何をやっているのかわからない。広報は掲示板、回覧だけでなく、お互いに声掛けをすることが大事である。
- 社協が一生懸命やっていることがわかったが、一般の人は全くわかっていない。活動が広まっておらず、もったいない。
- 支援の窓口はたくさんあるが、こちら（地域）から情報を発信する機会が少ない。
- ラジオ体操をやめるところが多いが、多世代交流の場となり良い取組なので、夏休みのラジオ体操を重点取り組みとしたい。
- 釜利谷は、健康づくりのための環境がそろっている。集うこと、人と人とのつながりがあるからこそ、その環境が活かされる。
- 地域を歩いてクイズとスタンプラリーを行いたい。最後に豚汁等を出し、家族で楽しめるようにしたい。健康づくりや地域の交流にもつながる。
- もともと横のつながりがある地域。高齢化率が高いということは「住みやすい」ということでは。
- 町内の行事が活発だとつながりやすい。地域の行事を大切に。
- 住みよいまちとするには挨拶が大切で、継続すれば自然とできるようになる。
- 近所づきあいがあり、犯罪が少ないまちが住みよいまちで、お互いに声を掛け、顔見知りになることがまずは大切である。
- 地域でつながりがあると犯罪率が低い。口コミが広がる地域はよいと思う。